

RICHARD PETTY'S NASCAR '70 PLYMOUTH SUPERBIRD (FRANKLIN MINT 1:24)



この人、この色、このナンバー。

鮮やかなブルーが目を惹く“キング・オブ・リトル・ベディ”の70年シーズンのドライブしたマシンがこちら。全長18インチにも及ぶリフトアップのノーズコーンと、重荷を圧倒する巨大リアウィングが特徴的な1970年スーパーバードである。エンジンフードの下に置かれた、レース用のチューニングが施された429HPI、フランクリン・ミンツのこのモデルは通常の置きかたを兼ねたディテールのひとつひとつまで細かにリアルにその極品レーサーを再現している。ファンタジー風にその姿を見てると、あたかもそこに本物が存在しているかのように思えてゾクゾクしてしまふ。

R.ベティに最高のシーズンをもたらしたマシン。

こちらはリチャード・ベティがシーズン27勝という圧倒的な数字でグランドナショナル・シリーズを制した67年のNASCARマシン。ベティは同年に優勝したプリマス・ベルベデレGTXだ。70年型スーパーバードと比較しても車体の寸法に時代を感じず、そうしたディテールが生き生きと再現されていることもファンタジー・ミットならではの魅力と言える。



RICHARD PETTY'S NASCAR '67 PLYMOUTH BELVEDERE GTX (FRANKLIN MINT 1:24)



BOBBY ALLISON'S NASCAR '69 DODGE CHARGER 500 (ERTL 1:18)
MOPARマッスルのルーツをたどる上で、NASCARマシンを抜かずわけにはいかない。

ここに登場するのは69年のシリーズ初戦にデビュー・アポイントドライブしたチャージャー500。69年型のチャージャーはヘッドライトを採用した鋭いマスクが特徴のひとつだが、そのデザインでは高速走行時に視覚的なエアロダイナミクスを考慮し、このチャージャー500には30分ネットのグリッドが採用されている。また、ウエーダー・ペラーに似せて一般車に、車体から突出してサポートしているリアウィンドウも、エアロダイナミクスに設計されたデザインが変更されている。言うまでもなくこれも実力を発揮させた結果である。ただ、この69年シーズン途中からギャップのNASCARマシンはさらなる進化を遂げ、鋭いノーズコーンと巨大リアウィングを備えたチャージャー・ディテールとスウィッチされている。そのため、このチャージャー500のレースカーはほんの僅かの期間だけ活躍したスーパーレア存在として知られる。そして、このERTL製のモデルカーもまた、きわめてレアな1号である。

ULTRA RARE MUSCLE CAR SCALE MODELS

“ウルトラ・レア”なマッスルカーを、テーブルの上で楽しむ!!

アメリカン・マッスルカーは、それ自体がもともとNASCARやNHRA、SCCAといったレースに出場する目的から成り立っていることもあり、一般的なカタログやガイドブックに掲載されていない、特別なモデルも存在している。そこにマッスルカーの奥深さを感じるわけであり、読者のみなさんもそんなウルトラ・レアなマッスルカーたちを見てみたいと思うはずだ。もちろん筆者としてもぜひそれらを撮影して紹介したいところなのだが、FAR EASTに位置するこの島国でそれを望んだところで、そう簡単にコトが運ぶはずもない。そこで今回はなかなか実車にお目にかかれそうにないマッスルカーやビンテージレーサーを、スケールモデルでご覧に入れることにした。テーブル上に置かれたウルトラ・レア・マッスルカーたちを眺めつつ、ぜひ一緒に妄想を愉しんでいただきたい。

■TEXT&PHOTO/よしもと
■THANKS/RED LINE TEL043-545-0111 www.redline043.com
HOT WIRE TEL03-3314-3305 www.hotwireshop.com

MOPAR

